ふれあいネットワーク

こんにちは！社協です!!

2014 3月 No.105

特集 P2・3

第2次地域福祉推進計画
つながりふくしプラン
2011年→2015年
中間年度（3年次）終了

3か年で少しずつ着実に計画を推進

ひ孫といっしょ シリーズ104

山崎町 野々上（のうえ）

秦（はた） 良三（りょうぞう）さん（81歳）

千鶴子（ちづこ）さん（79歳）

○愛斗（まなと）くん（8歳）○衣織利（いおり）ちゃん（5歳）

○翔馬（しょうま）くん（4歳）○皇稀（こうき）くん（2歳）

秦（はた） 希澄（きすみ）さん・裕美（ひろみ）さん

■長男・長女・二男・三男

「ひ孫といっしょ」のコーナーに登場していただけるモデルさんを募集いたします。宍粟市内にお住まいで同居されていることが条件です。宍粟市社協本部・支部へお申し込みください。

第2次地域福祉推進計画
つながりふくしプラン
2011年→2015年
中間年度（3年次）終了

3か年で少しずつ着実に計画を推進

住民の声を“カタチ”にすることを目標に計画を進めています。写真は、役職員業務研究会が開催した「元気な地域づくり懇話会」での様子（11/1 山崎町小茅野公民館）

「宍粟市社協第2次地域福祉推進計画（つながりふくしプラン）」（以下、「2次計画」）の中間年度がこのほど終了します。今号では、3か年の推進状況を報告するとともに、残された2か年で重点的に進めていく取り組みについて説明します。

「進める会」で進捗状況を確認

「宍粟での新しいつながりのカタチをつくる」ことを、5年間で本会がめざす地域福祉目標として定めている2次計画。

この2次計画を着実に進め、地域福祉活動の活性化を図るため、「第2次地域福祉推進計画を進める会」（以下、「進める会」）を設置し、年次ごとの計画の進捗状況を確認しています。

2月17日（月）には、25年度3回目となる「進める会」を本部で開催し、2次計画推進期間の中間年にあたることから、3か年の進捗状況や問題点などを話し合い、中間年度の評価や見直しを行いました。

役職員業務研究会が2次計画を後押し

進める会では、課題となっていた未着手の事業や取り組みが進んでいない事業について事務局から説明を行い、各事業が計画に沿って少しずつではありますが進展していることを報告しました。

要因として、2月号で紹介しました役職員業務研究会での調査や研究が、毎日型配食サービスや限界集落化していく地域での買い物支援、ご近所ボランティア活動などの重点事業に着手するきっかけとなりました。

その結果、買い物送迎バス「お出かけ号」の試行運行を波賀北部域で実施するなど、宍粟での新しい取り組みの実践（＝カタチ）につながりました。

3か年で計画的に進めることができた事業や取り組みについては、3頁にまとめているとおりですのでご覧ください。

計画の達成度や見直しについて協議する、進める会委員（宍粟市社協本部）

読者の感想より　各地区でみんなが寄り添う「ふれあい喫茶」などの活動の様子がよくわかります。（山崎町　女性）

災害救援活動の強化 災害への備え

災害救援ボランティア活動マニュアルの点検や見直し、事業継続計画（BCP）の策定を行いました。また、災害救援に活用するために基金（年100万円）を計画的に積立ています。

専門的な相談の受け皿 住民の悩みに対応

心配ごと相談を包含した事業として無料弁護士相談を4支部で開催しました。また、市内の相談窓口として総合相談ガイドブックを作成し、全戸配布しました。

認知症の方などの 日常生活のお手伝い

福祉サービス利用援助事業は、認知症の方などの日常の金銭管理を行い、専門員や生活支援員の活動により利用件数が3年間で14件（現在20件）増えました。

男性介護者の会など 当事者組織への支援

毎月の定例会をはじめ、リーフレットや会報の作成など、事務局として「宍粟市男性介護者の会」の運営にかかる側面的な支援を継続的に行いました。

見えてきた
“つながりのカタチ”
市民の皆さまの
協力をいただきながら、
計画的に
進んでいます。

自治会福祉連絡会の 活動支援

小地域福祉活動第1期モデル地区として6地区を指定し、活動や組織づくりを支援しました。また、活動リーフレットを作成し、見守り活動の取り組みなどを明確にしました。

社協活動や 福祉情報の発信

広報紙（毎月）やかわら版（年2回）の発行により福祉情報を発信しました。現在、ホームページのリニューアルを進めており、より開かれた社協活動の情報開示に努めます。

団塊世代の ボランティア活動促進

セカンドライフ応援セミナーの1期生を中心に「ぶるーべりぃ会」が結成されました。傾聴や病院ボランティア活動なども合わせて、団塊世代の活動の参画を進めました。

限界集落化していく 地域での福祉活動

生活支援相談員等が公民館に出向き、出前お達者クラブを開催しました（波賀北部域、小茅野9回）。また、買い物送迎バス「お出かけ号」の試行運行を実施しました。

残り2か年で着実に計画を推進

中間年度のまとめから、課題や問題点も見えてきました。ここで、残り2か年で進めていく取り組みを一部紹介します。

小地域福祉活動では、活動の担い手となる福祉委員の育成を進め、第1期に続き、モデル地区指定事業として6地区を指定し、福祉活動を支援します。

幅広い分野から市民参加を図るため、ボランティアセンター運営委員会の設置やパンフレットの作成に力を入れ、センター機能の強化に努めます。

西播磨圏域での成年後見支援センター設置に向けた連絡会に参加し、宍粟市に成年後見支援センターが設置されるよう働きかけを強めるなど、権利擁護事業の推進を図ります。

支部地域福祉推進委員会で、各支部の福祉活動を明確にするため、支部福祉計画の策定を進め、支部運営を強化します。

これからも、市民の皆さまといっしょになって、汗をかきながら計画を進めていきます。

（本部　波多野好則）

読者の感想より

私たちの地域でも、年頃の子たちの結婚があまりかんばしくありません。何かいい方法はありませんか。（山崎町　女性）

や まさき

おもちゃランドへようこそ!

『山崎西小学校』のスタートに向けて

土万と菅野小学校は統合され、この4月から新しく『山崎西小学校』としてスタートします。

これまで両校は、統合に向けた合同学習や交流事業などを行い、準備を進めてきました。

2月20日（木）、この日は両校の一年生28人が、新入生となる園児たち16人を菅野小学校に招待し、体験入学を行いました。

この日のテーマは、『おもちゃランドへようこそ』。園児たちの元気な自己紹介で始まり、児童たちが考え2週間かけて準備した手づくりゲームでおもてなし。

「うちわゲーム楽しかった。早く一年生になりたい」「また会えるのが楽しみやな」など、期待に胸をはずませる声が多く聞けました。

新しく誕生する学校が、両校の伝統を引き継ぎ、地域との交流を大切にした小学校になってほしいと思います。

（山崎支部　森井裕矢）

工夫して作ったゲームは全部で12個!

うちわであおいで転がすゲーム。楽しい時間は、あっと言う間に過ぎていきました　（菅野小学校）

い ちのみや

シカ肉を活用したメニューを

シカ肉の試食会を開催

2月18日（火）、一宮保健福祉センターを会場に、シカ肉の試食会を行いました。

この取り組みは、西播磨県民局の補助事業「平成25年度シカ肉給食導入支援事業」の助成を受けたもので、配食サービス事業の新たなメニューとして、シカ肉を活用した開発研究を進めています。

当日は、調理ボランティア2班の協力により、コロッケ、一口カツ、南蛮漬けのシカ肉料理3品を作り、出来上がった料理は、午後から行った配食サービス代表者会の中で試食しました。

「肉が柔らかく味付けも良かった」「冷めても美味しかった」「思ったより臭みがなかった」など、シカ肉料理への評価は上々でした。

ひと手間加えることで美味しいメニューに生まれ変わる「シカ肉」が、お弁当の一品として利用者のみなさんに届く日も近いと思います。

（本部・一宮支部　中野祐子）

シカ肉を“揚げて”“混ぜて”（栄養指導室）

試食の後にはアンケートで意見を集約（介護者教育室）

読者の感想より　亡くなった義母を見習って、「三軒両隣」を大切に生活していこうと思います。（山崎町　女性）

は が

みんなの〝ほっこり〟スポット

善意銀行でベンチ配備

「ほっこりベンチやろ、知っとるで！」「きれいなベンチになったなぁ」下校のバスを待つ小学生たちの、にぎやかな声が聞こえます。

合併前の波賀町社協が善意銀行を活用し、町内のバス停や集会所に配備した間伐材利用の『善意銀行ベンチ』は、10年以上使用され、場所によっては著しい劣化が気になっていたところです。

ほっこりベンチで「ピース!」　学童保育所の女の子たち（メイプル福祉センター）

そこで、波賀支部では、善意銀行の支部配分金を使い、新しく10基の木製ベンチを作製しました。そして、各自治会へ問い合わせ、希望される自治会に対し、このたび新しいベンチの更新を行いました。

波賀地域福祉推進委員会では、このベンチを『ほっこりベンチ』と名付けました。バス停や地域のなかの、ちょっと『ほっこり』できるスポットになればと思っています。

（波賀支部　可藤和成）

波賀支部かわら版「ほっこり通信」にちなみ、名付けました

ち くさ

元気をあげて、笑顔をもらって

千種高校ボランティア部の取組み

2月25日（火）は千種高等学校ボランティア部の活動日です。6名の部員が2組に分かれて、歩いてお弁当を配達しました。

学校にお弁当が着くと専用の配達バッグに詰め替え、いつものように利用者のお宅へと向かいました。

「こんにちは！」「お弁当持ってきました」と元気な声をかける高校生に、「今日は寒いのにありがとう」と嬉しそうに応える利用者の声。

40分くらいで配達を終えて学校へ戻り、利用者一人ひとりの様子を記録します。

「久しぶりにお会いしました。笑顔に癒（いや）されました」などとノートに記入して今日の活動が終了です。

高齢者の方にお弁当と元気を届けるだけでなく、訪問先でいただく笑顔で癒されたり、気持ちの通い合う活動になっています。

平成2年から続いているボランティア部の活動は、配食サービスの他にも、施設での花植えや特別支援学級児童の雪遊びの支援など様々です。

これからも色々なことに挑戦し、心ゆたかな高校生活を送って下さい。

（千種支部　小原志のぶ）

お弁当を届ける平瀬加菜絵さん（右）と杉本あずささん

「また来てね」の言葉を励みに

話すことは健康に繋がります！

2月22日（土） やまさき白寿園（山崎町春安）

傾聴ボランティア「ロバの耳」のメンバーが、やまさき白寿園を訪れました。

「最初の活動場所は施設で」と話し合い、白寿園とやすらぎ介護センターで活動されています。

この日も利用者さんに寄り添い、いろんな会話で盛り上がります。「小学一年の孫がな…」とお孫さんの話や同居中の息子さんへの感謝の気持ちなど、みなさんの『想い』を聞かせていただきました。

「“また来てね”の利用者さんからの言葉が励みになり楽しんで活動をしています」とメンバーの河井弘子さん。

今後は個別依頼へも対応していきたいと意欲的なみなさんの活動を応援しています。

（山崎支部　横山洋子）

ロバの耳で一緒に活動しませんか？

「ロバの耳」は宍粟市で初めて結成された傾聴ボランティアグループです。

「外に出れなくなったので話し相手がほしい」、またご家族の方から「軽度の認知症で引きこもりになり心配です。話し相手がいれば…」等の依頼も多く、今後はそのような声にも応えられるように、一緒に活動していただけるメンバーを募集しています。

＜傾聴ボランティアに特別な資格は必要ありません。相手の気持ちに寄り添い『聴く』お話ボランティアです＞

定例会
毎月第1火曜日開催
会場:宍粟防災センター
お問合せ:山崎支部　TEL 62-5530

「つながり」つくる食事会

職員の手作りおでんで心も体もぽっかぽか

2月14日（金） まどか園（一宮町福知）

まどか園を訪問すると楽しそうな話し声が聞こえてきます。この日は施設職員と地域の方々との懇親会が行われていました。

まどか園では、施設を身近に感じてもらおうと、昨年から近隣自治会やボランティア等に呼びかけ、職員との懇親会が実施されています。

事務局長の岩﨑政己さんは「交流の場を大切にし、職員を知ってもらうことで、みなさんにもっと施設を身近に感じてもらいたいです。」と話されます。

ボランティアの上川サダ子さんは「地域交流を活発にされて、とてもうれしい。こういう施設と住民のつながりづくりが大事やね」と話されました。

（本部・一宮支部　田中祥仁）

留守の時、どうしたらええ？

利用者のことを考えた意見が続出

2月19日（水） 千種保健福祉センター

配送ボランティア連絡会議を開催し、10名の方が出席されました。配送ボランティアの活動は単独で行うことが多いため、仲間と顔を合わせて意見を交わす良い機会となりました。

日頃、お弁当配達で気が付いたことが次々に出され、皆で安否確認の方法などについて話し合いました。

「顔を見て手渡したら、わしらも安心や」「おっちゃないと、気になって、気になって…何回も行くことがある」と利用者の安否を気遣っておられることがわかりました。配達票の工夫についても提案していただき、実りある会議となりました。

（千種支部　小原志のぶ）

読者の感想より　地域で輝いて活動されているのに感動し、私も何か役に立てることがあるかしら?と思いながら読ませていただいています。（山崎町　女性）